

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100011		
法人名	株式会社 マル若商店		
事業所名	グループホームホープ		
所在地	岐阜県多治見市希望ヶ丘2丁目3番地		
自己評価作成日	令和3年1月22日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和3年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設移転に伴い、新規利用者様の内、2名の男性が入所されて、明るく活気が出て全体の雰囲気も変わり良い相乗効果を生んでいます。現在はコロナ禍でもあり、なかなか大人数での外出が困難になり、1人～2人の小人数でのお出かけ、ドライブで紅葉などを楽しんでいただきました。また楽しみにされていた外食が困難のため、室内でのレクレーションを充実して、皆様で力を合わせて季節ごとのお花の貼り絵をしたり、ポーリング・カルタ取り・塗り絵など多彩に楽しんで頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年秋、隣地に事業所を建て直し、移転している。内装も旧館同様にした事で、利用者も動揺することなく、地域住民と関係者の協力を得ながら、新しくなったホームで笑顔で過ごしている。毎日、代表と各事業所の施設長は、職員の意見や要望、人材育成等について意見交換し、利用者サービスの質の向上に繋げている。認知症は「十人十色」であるが、一人の利用者への接し方、ケア方法は、職員が何人いても、「十人一色」の同じでなければならぬと考えている。新型コロナの影響がある中でも、様々な工夫をしながら、利用者の笑顔に繋がるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度同様、介護度の低い利用者様が増え、公園やご近所での散歩を通して、地元住民とのふれあいを増やすことができ、町内の皆様に周知できた。	運営理念から導き出したケアの理念を、会議や申し送り時に振り返り、確認している。職員は、日々、ケアの質の向上を目指し、利用者一人ひとりの人格を尊重しながら状態にあった支援方法を共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の町内会長へ運営推進会議への参加の働きかけを行っている。今年度は町内の防火管理者として地域に参加した。	自治会に加入し役員等も担っている。地域の行事やごみ当番、公園の掃除等に参加して交流をしていたが、現在は、ほとんどが中止となっている。新型コロナ収束後には、運営推進会議で、より地域とのつながりを深める取り組みについて、話し合うこととしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際には、認知症の理解の機会とし、町内会またはご近所にも参加を呼びかけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災について意見を交換し、助言に基づき、備蓄品の強化、連絡網の見直しを直ちに行った。	運営推進会議は、様々な構成メンバーが参加して開催し意見交換していたが、現在は、感染防止対策の為、書面会議とし、議事録をメンバーに配布し、意見を受けながら、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課の担当者とは、今回の施設移転に伴う書類提出の際、何度も打ち合わせを重ねた。いろんな課題も相談しあえる協力関係を築けた。	市から、新型コロナ関連情報や災害対策について、メールや電話等があり、助言を得ながら運営に取り組んでいる。困難事例や空き情報等は、日常的に連絡を取り合い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、実際の利用者に当てはめて、柵などが必要か否かなど意見交換し、拘束しないで済む方法を検討し実践した。	身体拘束適正化委員会を定期的に行い、身体拘束ゼロの支援に取り組んでいる。マニュアルを基に、具体的な場面を想定し、起こった原因と対策について意見交換している。また、実際のケア事例についても検討し、対応を行いながら、利用者へ寄り添うケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を学び、職員が気になったことを管理者に報告し、当事者と意見を交わすことで、指導と防止に努めた。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	引き続き、必要に応じ社協と協議し、適正かつ継続的な援助をうけられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望者様にはご家族や、利用者様に施設内を見学して頂き、契約書・重要事項・運営規定など詳しく内容を説明し、理解・納得を得た後契約を行っている。又不明な点は、随時説明できるように、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の形式がとりにくいため、電話やメールで密に連絡をとり、施設運営に反映させてる。	利用者の日常生活の様子が分かるよう、毎月「ホープだより」に写真を載せて家族に送付している。隔月には健康状態が分かる「身体の変化」も報告し、家族からの意見を聞く機会としている。現在、面会を制限しているため、電話やメールで意見を聞き、家族の思いを汲み取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で出た意見は勿論の事、申し送りノートに書かれた意見も、すぐ出来る事は実行している。	管理者も現場に入り、日頃から職員の気づきや提案を聞いている。毎月の職員会議やミーティング、申し送り時にも聴き取り、風通しのいい職場環境づくりに努めている。入浴介助の負担軽減を求める意見があり、新たに風呂用昇降椅子を導入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個人面談をおこない、心境を話してもらうことにより、就業環境の整備に努めた。また給与改善について上司に提案した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社員教育の重要性を認識して、スタッフ個人個人の能力に見合ったスキルアップのため、希望者については介護福祉士の取得のための実務者研修の手配、合格のための計画的な指導を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月にたじみサービスネットワーク会議に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、出来る限りの情報をお聞きし、入居への経緯や、入居者様の置かれた立場などを、医療社会面からよく理解した上で、本人の立場に立ち安心していただける環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の要望を良くお聞きし、困っている課題を見極めながら、ご本人らしく過ごしていただけるように、努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望を第一にお聞きし、ご家族と相談しながら、必要なサービスの提供をするように、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症であっても、「介護される」という一方的な関係に置かず「共に暮らす一員」と言う立場で、信頼関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の影響で面会は困難であるが、お便り、メール、電話などで状況をお知らせし、アドバイスを頂くなど、連絡を取り合いサービスにつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、以前のように関りをもっていたことはできなかった。	今までは、親戚・家族・友人の訪問も多く、利用者が来訪者とゆっくり時間を過ごせるよう支援していた。コロナ禍の今、今までのような面会は難しいが、馴染みの人との手紙のやり取りや電話対応等で関係継続を支援している。馴染みの場所へはドライブに留めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席順は特に気を付けて、利用者が孤立や対立しないように職員が関係作りにつとめている。利用者同士が、自然に仲良く明るく楽しい生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設などへ転居された時には、必要な情報を提供して、利用者様や、ご家族が混乱しないように努めている。入院された折には、お見舞いに行くなど関係を断ち切らない関係に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で、ご本人又、他の利用者とうまく折り合いが保てるように、スタッフが間にはいり、快適に過ごしていただけるよう努めている。	職員一人ひとりが、ホームの目指す個別支援を常に意識し、利用者それぞれの個性や習慣を受け止め、表情や行動を見逃さないよう心がけている。意思表示が困難場合は、家族の協力を得ながら、時間をかけて思いを汲み取り、新たな情報は職員間で共有し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から、利用者の生活歴・暮らし方生活環境など、詳しく聞き取り、職員間で情報も共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズムを把握上で、本人とのコミュニケーションを通して情報収集をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、利用者全員のケースを検討している。医師や看護師の意見を参考にし、利用者やご家族の希望を介護計画に反映し支援に努めている。	申し送りノートや介護ケア記録を基に、職員会議で話し合い、本人・家族の意向に沿った介護計画を作成している。医師や看護師、関係者の意見を参考に、毎月、モニタリングを行い、身体機能の維持と安らぎのある生活の継続を柱にした介護計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが気付いた点は、申し送りノートに記入し、それに基づき会議で検討しケアサービスの統一をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院介助や付き添いの支援を行っている。医療連携体制をとって、看護師による健康のチェックや相談も行い、緊急時には連絡し、かけつける体制もとっている。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により、地域資源の訪問は、企画のみで実現出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を家族同伴で受診する際は、利用者健康状況を説明した文書を渡している。提携医療機関の往診は月に1度ある。ほとんどの利用者様が提携医療機関を希望されている。	入居時に、かかりつけ医について説明し、利用者・家族が選択している。現在、全利用者が協力医をかかりつけ医とし、月1回の往診を受けている。職員として配置している看護師が、協力医と連携しながら、日々の利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康相談や健康管理を実施し、介護職からの情報により、身体的及び精神的ケアを行う。又異常の早期発見による対応により、悪化を防ぐように努めている。かかりつけ医の受診や入院措置など迅速な対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族の同意を得て利用者が入院した際は、看護師が立会い、ご家族の良き相談者となっている。又病院関係者と相談し早期退院に向け支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合における医療体制指針を説明し、承諾を受けている。随時、主治医とご家族との今後の方向性を話し合い、グループホームでの生活を考えて頂く場を持っている。	契約時に、重度化や終末期の対応について、利用者・家族に説明し同意を得ている。常時、医療行為を伴う場合や急変時は適切に対応し、主治医・利用者・家族・関係者と話し合いながら、利用者と家族の思いを受け止め、終末期支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を各階に貼り出し、迅速な対応ができるようにしている。又、消防署の協力を得て救急救命法やAEDの研修を実施し、緊急時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議にて、災害時は避難せずこの場に留まる事とし、その際の生活が行える、又地域の方々に協力できる体制の準備をした。	年2回の災害訓練は、夜間想定での避難誘導や連絡網の確認、通報等を防災責任者を中心に役割を決めて実践している。また、運営推進会議でも、地震・災害等の防災対策について話し合っている。市とは、災害時におけるの福祉避難所として協定を結んでいる。	運営推進会議や職員会議の中で、地震や水害時の防災対策について、話し合っている。さらに、様々な災害に対応できるよう、課題を検討しながら具体的な対策と防災意識の強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を否定するような声掛けを耳にした場合、管理者に伝え、管理者と当事者で意見交換を行い、再発防止に努めている。	職員は、常に利用者のプライバシーや人格を尊重した支援に努めている。特に、排泄ケアや入浴支援時の声掛けや対応は、利用者の羞恥心に配慮するよう心がけている。不適切なケアがあった場合は、管理者が注意喚起を行い、支援方法の再認識を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や要望を尊重して、自己決定しやすい声掛けを心掛けた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められない利用者も、提案助言にて、決定していただけた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴から本人の個性を生かした身だしなみやおしゃれのアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人が、食事を楽しめるよう、利用者に合った形態で提供する。又誕生日や、行事に合ったお菓子等を手作りにて提供。	三食とも手作りし、旬の食材を多く取り入れながら、利用者の嚥下状態に合わせた形態で提供している。コロナ禍の今、外食支援は自粛し、行事食や手作りおやつ、誕生日の特別メニュー等を工夫し、利用者の食べる楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、不足を(水分量、栄養)経口補水液、栄養補助食品などで適宜補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。又部分義歯が合わなくなった利用者様は歯科にて点検治療してもらっている。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄パターンを把握している。尿意があまり無い利用者様も表を活用して早めのトイレ誘導を心がけている。	排泄チェック表で利用者の排泄リズムを把握し、タイミングに合わせて誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間は、ポータブルトイレの使用や利用者にあった適切な排泄用品の選択により、本人負担費用の軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて利用者様の状況を把握している。便秘対応を個々に決めて看護師の指示により便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度の利用者も入浴できる様、風呂用昇降椅子導入予定。	入浴は週2回を基本にしているが、利用者の要望や習慣を受け止め、柔軟に対応している。個浴での入浴は、補助をしながらコミュニケーションを図り、楽しい入浴を支援している。重度化した人の為に、自動昇降椅子が設置され、利用者の安心・安全な入浴と職員の介助負担軽減に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の体調に合わせて、休息をとって頂くようにしている。日中と夜間のリズムをつけ安眠に繋げるよう心がけたり、話し相手になり安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は医療ファイルを確認し、全職員が把握できるように努めている。服薬時には、日付や氏名、時間や錠数、確実に口の中に入った事を確認しミスがないよう徹底している。又服薬済み空入れを使用し、再点検を引き継ぎ者がしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材のもやしの芽取りなどは、できる人全員でしてもらっている。食前、後のテーブル拭きは利用者様にお願いしている。時々ぜんざいを豆から煮て利用者様に喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換、体力向上の為、近所を散歩し、町内の方々と触れ合いを持ってもらう。	今までは、利用者の体調や状態に合わせて、散歩や外気浴、家族との外出、季節の年間行事等を楽しんでいた。コロナ禍の今は、感染対策をしながら個別でドライブに出かけ、車窓からの景色を眺めるなど、気分転換を図れるよう工夫している。	



岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホープにお預かりしているおこずかいの中から、パジャマや、身の回りの必要な品をスタッフと一緒に買い物する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、絵手紙を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	灯りは、その時の精神状況に合わせて変えている。壁に季節の絵や小物等を貼り、季節感を楽しんで頂いた。	今年度は、感染防止対策のため、写真および窓越しからの確認となった。新しくなったホームのホールには、ゆったりしたソファが置かれ、車椅子やリクライニング椅子も安全に移動できる広さがある。壁には季節の絵や手づくり作品、利用者の写真を掲示している。近隣の庭の花を眺めたり、住民の声も耳にすることができる居心地よい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、自由に会話が持てる様にしている。又、1階と2階を行き来する事で、気分転換をはかってもらう。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者にとってなじみの家具や物があれば居室に配置できるようにしている。又ご家族様の写真等置かれる方もあり、その人らしい「自分の家」になるような空間作りを支援している。	介護用ベッドが設置され、ベッド上の安全、安楽が確保されている。利用者は、使い慣れた家具や小物を持ち込み、家族の写真や風景写真を飾っている。また、個性や趣味を活かせるよう工夫しながら、居心地よく過ごせる居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新施設では、洗面台が上下可動式になり、また浴室の手摺が導入されたことにより、利用者が自力で移動したり利用したりできる範囲が広がった。ただし、十分な見守りが必要である。		